

「富県宮城」の挑戦2026

成長市場を疾走する立地企業

第1回

宮城県は、次代を担う新たな産業の集積・振興を推進し、「富県宮城」の実現に取り組んでいる。そこで宮城県に立地する企業のキーパーソンを連載形式で紹介する。第1回はワッティー(株)(東京都品川区)を取り上げる。半導体製造装置に使われる様々な種類のヒータ

ワッティー(株)
代表取締役社長

菅波 希衣子 氏に聞く



台市)と扇町工場(仙台市)の2工場を設けており、主要顧客である製造装置メーカーにとって欠かせない存在となっている。今回、代表取締役社長の菅波希衣子氏に話を

提案型営業で多様なニーズ対応

ーやセンサーを製造しているワッティーは、高い技術力を背景にした提案型の営業を得意としており、顧客の多種多様な要求に添えている。宮城県内には日の出町工場(仙

NANDフラッシュ関連も投資復活の兆しが出てきており、2025年度は良い決算が迎えられそうです。

ー26年度はどのようになるでしょうか。

菅波 春先にいったん落ちつくと思っています。

ー宮城県の2工場の概要は。

菅波 18年に開設した

ことができる点が強みといえます。そのため提案型の営業ができ、お客様に納入する製品もカスタム品が主流となっています。お客様の要望に応えながら、プラスチックも提案し、最適な製品を作り上げています。難しいご要望をいただいても、「できない」とは考えず「なにができるか」

菅波 AI製の小型セラミックヒーターが先端プロセス向けで伸びていくと期待しています。

また、既存のベーシックなヒーターも手堅い需要があります。

ーところで、宮城県に進出したきっかけは。

菅波 お客様からの誘いがきっかけです。工場の地元にとってもサ

して正解だったと思います。

ー宮城県の人材の印象は。

菅波 まじめ、素直で粘り強い人が多いですね。スポットライトを浴びたいという人よりも、地道に積み上げてきたという人が多いと思います。従業員は、泥臭い仕事にも黙々と向き合う人材が多かったのですが、宮城県の方はそのような社風にマッチしていると思いま

す。進出以来、宮城県庁様から採用など様々な面でサポートしていただいています。また、採用した人材は家族だと思いたく育っています。女性比率が多いこともあり、トイレなど工場内の設備を女性目線で改善してきており、大変喜ばれています。

ー「従業員ファースト」ですね。

菅波 私は年3回、すべての従業員と直接面談しています。そのことで人と人がよく分かれます。新卒の若い従業員が、面談するたびに成長していくのを見るのがとても楽しみです。

ー今後も採用は増やしていきますね。

菅波 扇町工場の生産が今後ピークになると、あと20人程度採用が必要になります。今後、採用の範囲をさらに広げていきたいです。

(聞き手・編集委員 齋秀樹)

目下のことろ、GPUやHBMなどAI向け半導体関連が依然活況なうえ、中国向けも好調です。さらに

日の出町工場はヒーター製造とALD成膜ビジネスを行っています。また、24年開設の扇町工場は特殊配管を製造しており、すべての製品を最大顧客の大手製造装置メーカー様向けに出荷しています。

ー貴社のヒーターの強みはなんですか。

菅波 様々なタイプのヒーターをラインアップしており、お客様のニーズに合致するものを作る

を考えるようにしています。

ーお客様には欠かせないパートナーといえますね。

菅波 おかげさまで、装置開発の初期段階から関わらせていただいております。技術交流会などにも参加しています。

ー今後伸びそうなヒーターは。

プライヤーがほしいという強いご要望を受けたことで、進出を決めました。最初は特殊配管の工場を建設しました。もともと相模原工場で製造していた特殊配管を宮城工場にも展開しましたが、お客様の認定工場となるまで1年かかりました。現在は地元出身の優秀な従業員に恵まれており、進出

す。

ー女性の比率も高いですね。

菅波 派遣の方も入れて6割が女性です。当社では男女問わず良い人材を採用していますが、結果として女性の比率は他社と比べても多い方だと思っています。採用実績としては、地元の工業高校や職業訓練校からが多いで

す。進出以来、宮城県庁様から採用など様々な面でサポートしていただいています。また、採用した人材は家族だと思いたく育っています。女性比率が多いこともあり、トイレなど工場内の設備を女性目線で改善してきており、大変喜ばれています。

ー「従業員ファースト」ですね。

菅波 私は年3回、すべての従業員と直接面談しています。そのことで人と人がよく分かれます。新卒の若い従業員が、面談するたびに成長していくのを見るのがとても楽しみです。

ー今後も採用は増やしていきますね。

菅波 扇町工場の生産が今後ピークになると、あと20人程度採用が必要になります。今後、採用の範囲をさらに広げていきたいです。

(聞き手・編集委員 齋秀樹)